



親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
増	ゾウ ふえる ふやす ます 教5 常①		增	增	增	增	增	增	増
増	人③			增	增		增	增	
墨	ボク ずみ 常①		墨	墨	墨	墨	墨	墨	墨
墨	人③		墨	墨	墨				
墜	ツイ おちる 常①		墜	墜	墜	墜	墜	墜	墜
墜									
墳	フン はか 常①		墳	墳	墳	墳	墳	墳	墳
墳									
壞	カイ こわす こわれる やぶれる 常①		壞	壞	壞	壞	壞	壞	壞
壞	人②		壞	壞	壞		壞	壞	壞
墾	コン たがやす ひらく 常①		墾	墾	墾		墾	墾	墾

【壞】大徐本と段注本の字体が微妙に異なる。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
増	増	増	増	増	増		増	増	増	増	増	増
増	増	増	増	増	増					×		増
墨	墨	墨	墨	墨	墨		墨	墨		墨		墨
墨	墨	墨	墨	墨	墨					×		墨
墜	墜	墜	墜	墜	墜		墜	墜		墜		墜
墜	墜	墜	墜	墜	墜					×		墜
墳	墳	墳	墳	墳	墳		墳	墳		墳		墳
墳	墳	墳	墳	墳	墳							墳
墳	墳	墳	墳	墳	墳							墳
壞	壞	壞	壞	壞	壞		壞	壞		壞		壞
壞	壞	壞	壞	壞	壞					×		壞
墾	墾	墾	墾	墾	墾		墾	墾		墾		墾
墾	墾	墾	墾	墾	墾							墾

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆書	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
壤	ジョウ つち		壤	壤	壤	壤	壤	壤	壤
壤	②		壤	壤	壤	壤	壤	壤	壤
壇	ガン タン		壇	壇	壇	壇	壇	壇	壇
壁	ヘキ かべ		壁	壁	壁	壁	壁	壁	壁
壕	ゴウ ほり		壕	壕	壕	壕	壕	壕	壕
士	シ まむらい		士	士	士	士	士	士	士
			士	士	士	士	士	士	士
			士	士	士	士	士	士	士
			士	士	士	士	士	士	士
壬	ジン みずのえ		壬	壬	壬	壬	壬	壬	壬
			壬	壬	壬	壬	壬	壬	壬
			壬	壬	壬	壬	壬	壬	壬

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
壤		壤	壤				壤					壤
壇		壇	壇				壇					壇
壁		壁	壁				壁	壁	壁	壁		壁
壕		壕	壕				壕					壕
士		士	士	士			士	士	士	士		士
壬		壬	壬				壬					壬

【壕】『陸軍幼年学校用字便覧』に正体が「壕」、通用字が「壕」とある。  
 【士】漢代までは「士」と「士」の字体が一定していない。日本上代から平安も「士」と「士」の字体が一定していない。また、日本上代から平安には「士」に点のついた字体がある。

【壬】「工」や「王」と字体が衝突する。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆書	隷書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
壯	ソウ さかん 常①								鄭晉指歸
壯	人②								魏玉集
尗	イチ ひとつ もっばら 常①								東大寺獻物帳
壹	②								空海・灌頂記
声	セイ ショウ こえ こわ 教2常①								王勃詩序
聲	②								馬王堆
央	オウ なかば 教3常①								邢武天皇雜集
失	シツ うしなう 教4常①								王勃詩序

【壯】干祿字書では旁が「土」だが五経文字では「土」。  
 【尗】「壹」の異体字で、「壹」の草書からできた字だとおもわれる。  
 【声】康熙字典の「声」の説明に「聲の俗字」とある。陸軍幼年学校用字便覧に「聲」と「声」について「實ハ別字」とあ

る。正字体を習ったはずの年代の太宰治が「声」を書いている。  
 【央】説文の字体が「大」の字体と異なる。  
 【失】大徐本と段注本の字体が異なる。手部の字だとすれば段注本の字体のほうがしっくりくる。楚簡に異体字がある。草

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												壯
												壯
												壯
												壹
												壹
												壹
												声
												声
												声
												央
												央
												失
												失

書は鄭固碑や楊淮表記の字体をくずしたものか。当用漢字表に使われた活字は左払いが欠損している。